

2021年9月27日  
国立情報学研究所

## ポジションペーパーの今後の進め方について

### 1. ポジションペーパーの進め方

#### 1-1. 当初目的

国内外のオープンアクセス・オープンサイエンス推進のための戦略を、学術コミュニティ等のステークホルダーとともに検討し、提言すること。

#### 1-2. 検討状況

- ① 2019年度第1回委員会：提言作成の前段階として各ステークホルダーでポジションペーパーを作成し、次回委員会で報告することとした。ポジションペーパー作成作業を経て、各ステークホルダー間で重複している部分・欠けている部分を確認し、世界的動向も踏まえた俯瞰図を作成することとした。
- ② 2019年度第2回委員会：各ステークホルダーが作成したポジションペーパーとそれを整理した俯瞰図を基に検討を行った。どのような視点・文脈で整理すべきかということをもとに明らかにし、改めて各ステークホルダーに作成してもらうほうが良いのではないかという意見があった。
- ③ 2020年度第1回委員会：各ステークホルダーが作成したポジションペーパーとそれを整理した俯瞰図を基に検討を行った。ポジションペーパーについては、各ステークホルダーがどのような活動をしているかだけでなく役割・貢献がわかる形でまとめるべき、大学内で執行部に対して説明できる際に活用できる資料とするべき、研究者の視点も考慮するべきという意見があった。俯瞰図については、どのような形で使用するのか、オープンアクセス・オープンサイエンス等の課題の構図を明確に分けたうえで時間軸を加えることができるのではないかと意見があった。審議の結果、武田委員長と林委員ほか数名の委員で小グループを作り、俯瞰図のリバイスを行うこととなった。
- ④ 2020年度第2回委員会：武田委員長私案のポジションペーパー・俯瞰図を基に検討を行った。オープンデータについて当初よりも研究者に意義が理解されつつあるのでその意識の変容等について言及してはどうか、コロナ禍等国際的・社会的な課題に対処するには科学と様々な分野が結びつく必要があるがその実現について言及してはどうか、エビデンスに基づく政策立案に対して学術情報流通こそがエビデンスを提供することを言及してはどうかという意見があった。ポジションペーパーについて再作成し、次回委員会で継続審議することとなった。

#### 1-3. 取扱い

当初は、国内外の学術情報流通に係る動向や各ステークホルダーのポジションペーパーを基にした、オープンアクセス・オープンサイエンス推進のための戦略を取りまとめるとしていた。また、取りまとめの提言とともに、学術情報流通を取り巻く俯瞰図

の作成も試みていたが、ステークホルダーの関係が複雑化し、刻一刻と変化している現状では一つの図としてあらわすことが困難であった。

この度、「学術情報流通推進委員会」を終了するにあたって、具体的ステークホルダーへの提言ではなく、SPARC Japan 活動の過去の業績の総括を行い、未来へのビジョン・今後の方向性を示すこととしたい。

## 2. スケジュール（案）

2021年9月：第1回推進委員会で、案（資料4-1）について審議を行う。

2021年10月：審議の結果を受けて、修正案を作成する。

2021年11月～12月：修正案について、メーリングリストで審議を行う。

2022年1月：メーリングリストの審議の結果を受けて、修正案を作成する。

2022年2月もしくは3月：修正案について、第2回推進委員会で審議・承認を行う。

2022年\*月：ポジションペーパーを SPARC Japan Web サイトで公開する。

以上